

---

# 悪魔との契約

山羊ノ宮

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

悪魔との契約

### 【Nコード】

N87570

### 【作者名】

山羊ノ宮

### 【あらすじ】

暇だったので、悪魔と契約した。

私は暇を持て余していた。

そんな私に悪魔が契約しないかと誘ってきたので、その誘いに乗った。

「で、私は契約して何をすればいいのだ？」

「いいえ、何も。ただ願うだけでさ。誰かを殺したいと願えば、あつしが代わりに殺してきやす。大金持ちになりたいと願えば、あつしが何処からかせしめてきやす。ただ願い事は三つまで。三つ願いごとを叶えると・・・」

グシシシと悪魔は品のない笑い方をした。

「では、早速願い事をしよう」

「へい。なんでやしよう？」

「三つの願いを一つにしてくれ」

「へ？・・・今何と？」

「三つを一つにしると言っている」

「願い事を減らすなんて、そんな損な事・・・」

「出来ないのか？」

「出来ないかと問われれば、出来やすが。その、三つ願いごとを叶えないと魂を奪えないっていう規律が・・・」

「そうか。三つ願いごとをかなえると魂を奪われるのか」

私は確認するために言った言葉だったのだが、悪魔にすればとがめられたように思えたらしい。

顔が青ざめる。

元々青かったが。

「さあ、さつさと願いを叶えてくれ」

悪魔はぐぬぬと唸って、頼りない音と煙を残して、消えてしまった。静かになる。

そして、私はまた暇になった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8757o/>

---

悪魔との契約

2010年11月13日02時17分発行